



ニュースレター「花一輪カフェ」創刊号に寄せて

樋野興夫

2019年3月2日、「がん哲学外来 花一輪カフェ」2周年記念講演会『日々是好日 ～幸せのタネさがし～』（勝田台文化センターに於いて）が開催された。会場は満員で、一杯で、立席であった。感激した。主催者の上田ご夫妻とスタッフの皆様の真摯な熱意には、大いに感動した。「バイオリン・ピアノコンサート」も最高であった。懇親会で、「花一輪カフェ」ニュースレター創刊号の発行が決定された。まさに、「私は、何ごとも即座に行くことが好きだった」（ゲートル）を彷彿した。

第4回「池袋カラオケ大会」（2019年3月3日）があった。『いぬのおまわりさん』も合唱された。基軸は、「困っている人と、一緒に困ってくれる人」であり、これこそ「がん哲学外来 花一輪カフェ」の神髄ではなからうか！

花一輪ほどのあたたかさ 花一輪カフェ 代表 上田 由起子(がん哲学外来認定コーディネーター)

2017年1月15日に樋野先生に「人生いばらの道、されど宴会」をご講演いただき、花一輪カフェは千葉県八千代市でスタートをきりました。

花一輪、、とてもやさしくてあたたかな言葉だと思われませんか？がん患者さんの繊細な壊れそうな心に寄り添う花一輪。そんな人でいられたらと思います。そしてどんな時でも全身全霊で一人お一人の思いに向き合っています。真剣にスタッフみんなで考え悩み、ともに泣き笑い喜びます。そんな仲間や、いつも逆に寄り添ってもらっている参加者（患者様）の皆様との出会いは宝物です。ボランティアスタッフも患者様も、花一輪カフェにどうぞ一度いらしてください。花一輪咲く春はもうすぐそこにきていますね。がんを忘れてみませんか？

はじめまして。 花一輪カフェ スタッフ 平山 裕子

はじめまして。普段は在宅で療養されている方々が住み慣れた家で自分らしい生活を送れるよう、訪問看護師として働いています。約2年前、花一輪カフェのお手伝いをさせて頂くようになった頃、親友ががんになり、自分はどうか親友を支えていけばいいのか、自分の心の持ちようをどうすればいいのか悩んでいました。このカフェに出会ったことも意味のあることなのだと思います。樋野先生の本を読み、皆さんと語り合う中で、自分の役割と使命とは何か、やるべきことは何か、考えるようになりました。このカフェが「誰もが気軽にふらっと行ける場所♪」となれるよう、頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

樋野先生、そしてがん哲学外来。 花一輪カフェ スタッフ 柳田 裕子(ヨガインストラクター)

時間が過ぎるのは本当にあっという間ですね。「がん哲学外来花一輪カフェ」がスタートして早2年経ちました。私たちスタッフも手探りでの場作りで、参加して下さる皆様に助けられてここまで続けることができました。本当にありがとうございます。3月2日は、2周年をお祝いして樋野興夫先生の講演会を開催しましたが、講演会も盛況のうちに終わり、私は講演後の樋野先生との懇親会に今回初めて参加させていただきました。私は先生の斜め前に座りお話をさせていただきましたが、先生は本当に気さくで、そこでの話題は先生が尊敬しているという新渡戸稲造の話をはじめ、私が初めて出会うものばかりで、それはそれは大変興味深いものでした。樋野先生は懇親会でも講演の時のお話の仕方と同じで、ふわっとした喋り方で、。だから、病気に不安を感じる患者様やご家族が、「がん哲学外来」を頼りとし、樋野先生が皆に必要とされているんだと納得。歳を重ねれば重ねるほど、心身すべてが健康でいるのはなかなか難しいですが、病気であっても病人ではない。樋野先生のお言葉の処方箋を紡ぎながら、花一輪カフェはこれからも皆様に寄り添ってまいります。